

4:27 そのとき、弟子たちが戻って来て、イエスが女の人と話しておられるのを見て驚いた。だが、「何を求めですか」「なぜ彼女と話しておられるのですか」と言う人はだれもいなかった。

4:28 彼女は、自分の水がめを置いたまま町へ行き、人々に言った。

4:29 「来て、見てください。私がしたことを、すべて私に話した人がいます。もしかすると、この方がキリストなのではないでしょうか。」

4:30 そこで、人々は町を出て、イエスのもとにやって来た。

4:31 その間、弟子たちはイエスに「先生、食事をしてください」と勧めていた。

4:32 ところが、イエスは彼らに言われた。

「わたしには、あなたがたが知らない食べ物があります。」

4:33 そこで、弟子たちは互いに言った。「だれかが食べる物を持って来たのだろうか。」

4:34 イエスは彼らに言われた。「わたしの食べ物とは、わたしを遣わされた方のみこころを行い、そのわざを成し遂げることです。」

4:35 あなたがたは、『まだ四か月あって、それから刈り入れだ』と言ってはいませんか。しかし、あなたがたに言います。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。

4:36 すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに至る実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。

4:37 ですから、『一人が種を蒔き、ほかの者が刈り入れる』ということばはまことです。

4:38 わたしはあなたがたを、自分たちが労苦

したのでないものを刈り入れるために遣わしました。ほかの者たちが労苦し、あなたがたがその労苦の実にあずかっているのです。」

4:39 さて、その町の多くのサマリア人が、「あの方は、私がしたことをすべて私に話した」と証言した女のことばによって、イエスを信じた。

4:40 それで、サマリア人たちはイエスのところに来て、自分たちのところに滞在してほしいと願った。そこでイエスは、二日間そこに滞在された。

4:41 そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。

4:42 彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方が本当に世の救い主だと分かったのです。」

当時サマリヤ人はユダヤ人からはさげすまれていたので、会話をすることはありませんでした。しかし弟子たちは「なぜ彼女と…」と言うこともなく、主イエスの働きに尊厳を感じていたようです。そこでイエス様は弟子たちに、「わたしの食物」として、最も必要であり欲するものを教えられたのでしよう。

それは人を救いに導くことです。イエス様は人としてこの女性と接したのですから、イエス様ならできても自分にはできないのは当然だと、考えるのは当てはまりません。イエス様はこのような人の来ない時間帯に水を汲みにくる女性の素性を察して、その上で女性の人格を認めながら、その本当の必要に沿って伝道したのでした。

私たちもまた、伝道という食物の味を体験してみましょう。その喜びを味わうことができますか

ら、チャレンジしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

